

分類名 [花き]

2 キク「天寿」のシェード栽培での貫生花の多発する高温遭遇時期の特定

園芸試験場

1) 取り上げた理由

キク「天寿」の6～7月出しシェード栽培における貫生花の発生は、シェード開始後の概ね30℃以上の高温遭遇が要因であることがわかり、普及に移す技術第67号で参考資料とした。

今回は、「天寿」で、シェード開始後に高温処理を時期別に行った結果、貫生花の多発する危険高温遭遇時期が明らかになったので参考資料とする。

2) 参考資料

(1) 「天寿」(長野系)の7月出しシェード栽培における貫生花の発生は、特にシェード開始後4週目に35時間(1日平均5時間の7日間)程度30℃以上の高温に遭遇すると多発する。

(2) 花芽分化のステージでは、4期(総ほうりん片多数期)～7期(小花原基形成期)にあたり貫生花が多発する。

3) 対象地域等

県下一円

4) 特に留意すべき事項

なし。

5) 背景となった主要な試験研究

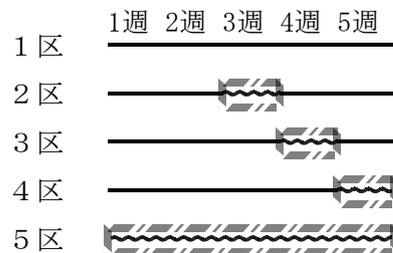
(1) 研究機関及び担当部科名 園芸試験場 栽培部 花き科

(2) 研究課題名及び研究期間 ホームユースの拡大をめざしたキク類の寒冷地気象活用型省力栽培システムの確立 平成6～8年

(3) 参考データ

表-1 7月出しシェード栽培での貫生花の発生(平成7年)

区	貫生花の発生(%)		
	-	+	++
1	100	0	0
2	78	11	11
3	23	27	50
4	68	20	12
5	22	28	50



定植後からシェード開始前まで昼温25℃以下、夜温13℃以上に管理した。シェード開始後2区～5区の期間(図-1)は昼温を午前10時から午後3時まで30℃以上の高温とし、夜温は15℃以上に管理した。

図-1 7月出しシェード栽培での処理方法(平成7年)

注) 貫生花の発生程度は花中に総ほうりん片が認められないものを- (無)、わずかに認められるものを+ (軽微)、明らかな貫生花で商品性がないものを++ (甚)とした。

表-2 7月出しシェード栽培での時期別高温処理と花芽分化ステージとの関係 (平成7年)

区	花芽分化のステージ						
	5/18	5/25	6/1	6/8	6/12	6/15	6/26
1	0	3	4	7	7~8	8~9	—
2	0	3	3	7	7~8	9	—
3	0	3	4	4~7	7~8	8~9	—
4	0	3	3	7	7~8	9	—
5	1	4	4	4	4	4	9

注) シェード開始後1週目: 5/12~5/18, 2週目: 5/19~5/25,
3週目: 5/26~6/1, 4週目: 6/2~6/8, 5週目: 6/9~6/15

図-2 キクの花芽分化ステージ

[耕種概要 (平成7年)]

- a 定植: 平成7年4月4日に冬至芽苗をプランターに5株植え。
- b 摘心: 2月7日に摘心して側枝を株当たり3本に整理した。
- c 日長処理: 5月12日まで午後10時から午前2時まで深夜電照を行った。
電照打ち切り後は午後6時から午前6時までシェードして12時間日長とした。

表-3 7月出しシェード栽培での高温遭遇時間と貫生花の発生 (平成8年)

区	貫生花の発生 (%)		
	—	+	++
1 シェード開始後4週目 高温5時間/日	40	40	20
2 シェード開始後4週目 高温4時間/日	68	32	0
3 シェード開始後4週目 高温3時間/日	83	17	0
4 シェード開始後4週目 高温0時間/日	100	0	0

注) 表-1に同じ。

[耕種概要 (平成8年)]

- a 定植: 平成8年4月12日に冬至芽苗をプランターに5株植え。
- b 摘心: 2月28日に摘心して側枝を株当たり3本に整理した。
- c 日長処理: 5月23日まで午後10時から午前2時まで深夜電照を行った。
電照打ち切り後は、午後6時から午前6時までシェードして12時間日長とした。
- d 温度管理: 定植後からシェード開始まで25℃以下、最低気温13℃に管理した。昼間の高温遭遇区は最低気温は15℃に管理した。

(4) 発表論文等

なし。